

おめでとう ミルハス!!

◆朗読ミュージカル◆

山崎陽子の世界

in Akita

泣いて、笑って、ほのぼのと……

あきた芸術劇場ミルハスの誕生を祝して、「朗読ミュージカル 山崎陽子の世界 in Akita」を上演します。2020年に開催を予定しながら、上演を中止してしまっていたので、待ち望んでいた方々も多いことでしょう。「観る人の心に限りないイメージを広げ、温かい空間を創り出す究極の舞台芸術」と高い評価を得ている独特の世界に包まれて、「文学、音楽、演劇」が一体となった舞台をお楽しみください。

山崎陽子



童話作家、ミュージカル脚本家。
日本文芸家協会、日本演劇協会、
日本音楽著作権協会、会員。
立教女学院卒業後、宝塚音楽学校、
宝塚歌劇団を経て結婚。

故遠藤周作主宰の素人劇団「樹座」
で20年間、座付作者として脚本を
担当。童話や脚本執筆のほかに、
作詞、エッセイ、講演など多彩な
活躍。

独自の舞台「朗読ミュージカル『山
崎陽子の世界 IV』」は平成13年度文
化庁芸術大賞を受賞。「文学・音楽・
演劇が一体になった究極の舞台芸
術」と評され、上演作品は60作を超
えている。

初期の作品は、脚本集『水たまりの
空』『人生は回転木馬』に、平成2年
以降の上演作は『朗読ミュージカル
山崎陽子の世界 脚本集』(I ~
III) に収録されている。

第I部 朗読ミュージカル

白いジャンパー

作：山崎陽子 作曲：高橋廉

平みち ピアノ：清水玲子



平みち

第II部 朗読ミュージカル

水たまりの王子

作：山崎陽子 作曲：塩入俊哉

日向薫 ピアノ：清水玲子



日向薫

第III部 朗読ミュージカル

それぞれの空

作：山崎陽子 作曲：小川寛興

森田克子 ピアノ：清水玲子



森田克子



朗読ミュージカル こぼれ話

平みち、日向薫、森田克子



清水玲子

2022年

10月23日(日)

午後2時開演 (開場1時・上演時間 約2時間)

前売4,200円(当日4,500円) 全席自由

会場 あきた芸術劇場ミルハス 中ホール (秋田市)

制作 — オフィス・ディーバ

作・演出 — 山崎陽子

司会 — 中條秀子

主催／書肆フローラ

後援／秋田県教育委員会・秋田市教育委員会

秋田魁新報社・ABS秋田放送・AKT秋田テレビ・AAB秋田朝日放送・エフエム秋田

朗読ミュージカルとは

山崎陽子作・演出の朗読ミュージカルは、文学・音楽・演劇が一体となった舞台芸術です。1人、または2人の俳優と1台のピアノだけしかない舞台は、洗練された都会的なサロン演劇の雰囲気を感じさせますが、よく観ると、内容は落語を、形式は浄瑠璃を感じさせます。

平成13年度文化庁芸術祭大賞受賞時に、相羽秋夫氏（元大阪芸術大学教授・演芸評論家）は、「今日芸を伝統芸に」と題して、次のように論評しています。

「(前略) 朗読ミュージカルは、極めて歴史の浅い芸である。伝統芸に対して今日芸と言うことができる。／だが、よく分析すると、日本人が長い間追い求めていた数々の芸の上に、新しい芸域を開花させた稀有の例であることがわかる。／新しい芸は、ある日突然に生まれるものではない。先人の叡智の積み重ねの上に成るものであることを、改めてわれわれに証明してくれたのである。／それゆえに、この賞は重い意味を持つ。これから果敢に挑戦する人たちへ、この希望と勇気を与えてくれた点でも貢献度は高い。(後略)」

主催者から——書肆フローラ 主宰 遠藤知子

2年前、コロナという疫病にどのように対処すべきか迷いながら、私達は4月26日に予定していた「山崎陽子の世界」上演のために心を砕いていました。出した答えは1年後に開催を延期。そして、年がかわって新たに決めた公演日を目前に、今度は中止の決定を致しました。でも、楽しみにされていた方々の「どうして止めたの？」という非難を含んだ眼差しが肩におぶさっているような気がするが多くなりました。たしかに、朗読ミュージカルは人の心を明るくする「特効薬」なのに……。ずっと悔いが残りました。

「山崎陽子の世界」には「泣いて、笑って、ほのぼのと」というキャッチフレーズがありますが、これは興行のために

9月発売！

泣いて、笑って、今こそ読みたい……

朗読ミュージカル 山崎陽子の世界 脚本集Ⅲ

定価 1,980円 (本体 1,800円+税)

脚本集Ⅲ (12作品)
 舌切り雀 (太宰治「御伽草子」より)
 人生は回転木馬 (O・ヘンリー「愛の使者」より)
 氷の女王 (O・ヘンリー「都会の敗北」より)
 丘の上の貴婦人 ある杉の木の物語
 白檀の扇子 (東直子「とりつくしま」より)
 高瀬舟 (森鷗外「高瀬舟」より)
 春うらら (「女狂言 春うらら」より)
 喪服のコニー (O・ヘンリー「伯爵と婚礼の客」より)
 真夏の貴婦人 (O・ヘンリー「桃源郷の短期滞在者」より)
 つれあい (内海隆一郎「連れあい」より)
 最後のひと葉 (O・ヘンリー「最後のひと葉」より)
 刑事ベン・プライス (O・ヘンリー「罪と覚悟」より)
 併録：山崎陽子のシャンソンから ある日突然……／
 ポケットの中／月と野良犬／酔いどれ女の独り言／祭りの宵に

お求めは、全国の書店、書肆フローラ、オフィス・ディーバ (03-6429-3560) で

脚本集Ⅰ (15作品)
 父さんの看病 (テ・アミーチス「クオーレ物語」より)
 おぼろ月夜
 青い星の願い
 新・つづみ物語
 葉桜のころ (太宰治「葉桜と魔笛」より)
 幻の肖像画
 月あかり
 バルコニーにて

好評既刊

脚本集Ⅱ (13作品)
 いざ別荘へ (O・ヘンリー「警官と讃美歌」より)
 水たまりの王子
 善造どんと狸汁
 杜子春 (芥川龍之介「杜子春」より)
 みそかの月 (樋口一葉「大つごもり」より)
 それぞれの空
 白いジャンパー



作られたものではありません。観客の方々がいつの間にか感じるようになった、一種の優しい批評の文言なのです。

山崎陽子さんが秋田で初めて公演をされたとき、お客様が笑ってくださるだろうかと心配していました。ところが、客席からの反応は活発で心配は杞憂でした。

そのことを証明するのが、30分ほど行ったトークの時間です。作品が「笑いの缶詰」とよく言われますが、秋田で初めて開けた缶詰には笑いが詰まっていた。今回山崎さんは東京からの長旅がこたえるようになったと、出演されませんが、この「笑いの缶詰」を劇場で開けてみようと思っています。どういう形になるかは、当日にご期待ください。

チケットのお申込・お問合せ先(FAXは以下の欄をご利用ください)

- ❖ 書肆フローラ(秋田市) TEL 018-847-0691/FAX 018-847-0692
- ❖ あきた芸術劇場ミルハス(秋田市) TEL 018-838-5822/FAX 018-838-5825
- ❖ 工芸ギャラリー園(大仙市) TEL 0187-75-1339/FAX 0187-75-1340
- ❖ さきがけニュースカフェ(秋田市) TEL 018-874-8171
- ❖ caoca広場サービスカウンター(秋田駅 トピコ内)

お名前

ご住所 〒

お電話

10月23日(日)

あきた芸術劇場 ミルハス
中ホール

入場券 枚

時節柄、公演を中止することがございます。その時はチケット代金をお戻し致しますので、ご購入された方はお知らせ下さいませよう、お願い申し上げます。



書肆フローラ 〒011-0946 秋田市土崎港中央4-6-10
TEL 018-847-0691 FAX 018-847-0692